

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：14501

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B））

研究期間：2018～2023

課題番号：18KK0043

研究課題名（和文）インドシナ半島におけるプライマリ・ヘルスケア・システムの国際比較研究

研究課題名（英文）A Comparative Study of Primary Health Care Systems in Indochina Peninsula

研究代表者

島村 靖治（Shimamura, Yasuharu）

神戸大学・国際協力研究科・教授

研究者番号：50541637

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、まずプライマリ・ヘルスケアへのアクセス改善を目指すベトナムの医療皆保険制度の構築に対する政策提言をまとめ、同時に医療保険に関連する4本の論文を発表、うち2本を査読付き国際学術誌に公刊している。次に、ベトナム、カンボジア、ラオスにおけるプライマリ・ヘルスケア・システムの比較研究については、最初に各国におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現を念頭に「健康」の意味を再考する論文を査読付き国際学術誌に公刊し、更に各国の既存データ及び一次医療施設で実施した独自調査データを用いた論文も4本発表している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

まず、ベトナムの医療皆保険化のプロセスをリアルタイムでモニタリングしていく研究は世界的にも極めて稀な研究であり、高い学術的価値を有している。次に、ベトナム、カンボジア、ラオスにおけるプライマリ・ヘルスケア・システムの比較研究については、各国の一次医療施設において医療従事者及び患者双方から独自に詳細なデータを収集して分析を行っている点に大きな学術的意義がある。プライマリ・ヘルスケアの重要な担い手である一次医療施設の抱える問題は多くの開発途上国においても共通な課題であると考えられるため、各国の調査データを使った分析結果の共有は国際的にみて大きな社会的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：This research project, firstly, summarized policy suggestions for achieving the universal insurance coverage aiming to improve access to primary health care in Vietnam. Simultaneously, four papers, of which two papers were published in international refereed journals, explored research questions relating to the public health insurance program in Vietnam. Secondly, with respect to the comparative study of primary health care systems in Vietnam, Cambodia, and Lao PDR, this research project published one paper that re-considered the meaning of “health” in relation to the realization of universal health coverage in each country. Moreover, four papers, by utilizing both existing data in each country and original survey data collected at community health facilities, conducted some empirical analyses.

研究分野：開発経済学

キーワード：プライマリ・ヘルスケア・システム 医療保険制度 インドシナ半島 ベトナム カンボジア ラオス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2015年、国連にて Sustainable Development Goals(SDGs)が採択され、「健康な暮らし及び厚生」の促進は第3重要課題に設定された。健康問題の改善のためにはそのメカニズムを解明しなくてはならないが、人々の健康問題の背景には複雑な要因が考えられる上に、データの制約上研究の進捗が困難なことが多い。なかでも、健康な暮らしのためには医療現場、特に(1)プライマリ・ヘルスケアに関する医療サービスの供給面の改善が差し迫った課題となっているにも拘わらず、詳細なマイクロデータを用いた研究、特に経済実験や仮想質問を取り入れた研究は極めて限定的であった。加えて、質の高い医療サービスの利用を促進するためには、需要側への介入の重要性も無視することはできない。そのため、(2)2020年までに医療皆保険の達成を目指すベトナムにおいて、皆保険化の達成間近の政策インプリケーションを研究することが求められていた。

2. 研究の目的

本研究では、インドシナ半島の国々(カンボジア、ラオス、ベトナム)を取り上げ、(1)各国で独自に収集するデータを用いてプライマリ・ヘルスケアに関する医療サービスの供給面の課題の分析を行うことを目的としていた。また、(2)ベトナムの医療保険加入率は2018年に既に8割近くに達していたが、2020年までに本当に皆保険化を達成することができたのか？そして、その財政負担は政府と医療サービス需要者のどちらがどの程度負担することになったのか？皆保険制度は財政的に持続可能なのか？といった問いについて研究することを目的としている。

3. 研究の方法

まず、(1)プライマリ・ヘルスケアに関する医療サービスの供給面の分析に関しては、村落レベルの一次医療施設に焦点を当て、そこで働く医療従事者に対して質問調査を行った。調査の重要な特色は、経済実験もしくは仮想質問を用いて、医療従事者の利他性や協調性、信頼性等これまで医療経済学・公衆衛生の文献ではほとんど触れられてこなかったパラメーターを収集し、医療従事者の行動と結び付けようとする点である。医療行為は人間を介して行われるものであるものの、既存研究では、医療従事者のこのような属性を考慮することなく研究が進められてきた。よって我々の研究は、目下隆盛している実験経済学的な観点を、医療従事者の行動という政策的に極めて重要な課題に取り込もうという新たな試みである。加えて、カンボジア、ラオスでは Demographic and Health Survey 等の既存のデータを用いた分析も行っている。更に、(2)ベトナムで拡大が続く医療保険導入の政策的インプリケーションについては、ベトナム統計局が隔年で実施している Vietnam Household Living Standard Survey のデータを活用した分析も行っている。

4. 研究成果

研究期間中、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延によりカンボジア、ラオス、ベトナムでの独自調査の実施に大幅な遅延が生じてしまった。そのため、前半はベトナムの医療保険制度に関する研究を優先的に進めた。具体的には、ベトナムの医療皆保険制度の構築に対する政策提言をまとめた論文を公刊し財務省財務総合政策研究所 ASEAN ワークショップで発表する共に、医療保険に関連する4本の論文を発表、うち2本を査読付き国際学術誌に公刊している。次に、ベトナム、カンボジア、ラオスにおけるプライマリ・ヘルスケア・システムの研究については、最初に各国におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現を念頭に「健康」の意味を再考する論文を査読付き国際学術誌に公刊し、更に各国の既存データ及び一次医療施設で実施した独自調査データを用いた論文計4本も発表している。

- (1) 「ベトナム皆医療保険制度の構築支援に向けて - その歩みと現状: 政策評価からの提言 - 」
大阪商業大学比較地域研究所 地域と社会 第21号 41-61頁, 2018年

本論文では、ベトナムの医療保険制度に関連し 加入率の増加と医療サービスの需要と供給、皆保険制度構築の歩みと現状、加入率と病院の利用、医療保険カバレッジと企業パフォーマンスについてまとめた上で、医療保険制度の財政面からの持続可能性の考察を行っている。考察で挙げられた問題点は次の4点: 財源が一元化されておらず情報が共有されていない、保険加入が個人単位であり保険加入の種類が非常に多い、保険加入の強制加入が現実には全加入になっていない、保険料の多くが政府の補助金によって賄われている。そして、保険料額に関しては、保険料支払い意思額についての独自調査結果に基づき、国民の支払い意思額は現状の保険料よりも高く、保険料の増額の可能性が十分にあることを指摘している。

- (2) “Health insurance coverage and firm performance: Evidence using firm level data from Vietnam”, *The B.E. Journal of Economic Analysis and Policy*, Vol.18(4), 2018.

ベトナムでは医療保険への加入率を更に上げるための議論として、民間企業が提供する医療保険に関する議論がある。事実、法律で従業員の加入が義務付けられている大企業でも実際には法令を遵守していないケースが多々ある。本論文では、医療保険の加入と企業利益や労働生産性

との関係を検証し、産業によっては企業の従業員の医療保険への加入が企業利益や労働生産性を高める効果があることを示している。本研究の分析結果は企業が従業員を医療保険に加入させることで企業側にもメリットがあることを示し、保険の加入率を上げるための政策議論に一石を投じている。

- (3) “Analysis on demand- and supply-side responses during the expansion of health insurance coverage in Vietnam: Challenges and policy implications toward universal health coverage.” *Review of Development Economics*, Vol. 24(1): 144-166, 2020.

本論文では、ベトナム統計局が2002年から隔年で実施している全国規模の家計調査データを用い、省別の保険加入率の変化の違いを利用して医療サービスの需要・供給、双方の保険加入率の増加に対する応答を分析している。ベトナムの公的医療施設は中央レベル、省レベル、郡レベル、村落レベルの4階層の構造をしているが、2014年までのデータを用いた分析結果は保険加入率の増加と共に入院日数が増加するなど医療サービスへの需要の増加を示唆する一方で、供給側については省レベルの医療施設における医療従事者数の増加に限定されていたことを示している。加えて、需要面でも外来受診数に明確な変化は確認できず、また自己負担額の減少を確認することもできなかった。

- (4) 「ベトナムの公的医療保険市場における加入率の分析—国民皆保険化の達成に向けて—国際開発学会第31回全国大会, 2020年

ベトナムの公的医療保険への加入率は、2016年時点で約8割であった。本論文では、これまでにどのように医療保険制度が変遷してきたかを示し、加入率の分析を行っている。分析結果は、医療保険制度を反映し、男女共に職業による加入率の差が顕著であった。公務員の加入率が最も高く、外国資本の民間企業の従業員、国内資本の企業の従業員と続く。対照的に自営業者や扶養家族、学生の加入率は低くなっていたことがわかった。また、分析では世帯の1人当たり消費水準を所得の代理変数として使っているが、加入率との間には正の相関関係が見受けられる。流動性制約の有無の検定のためには一人当たり所得の内生性の問題を解決する必要があるが、無償で保険が提供されている貧困層や準貧困層を除いても、未だに流動性制約に直面しているグループが存在している可能性を示唆している。加えて、公的医療保険市場において情報の非対称の問題が存在するかどうかについても検証し、8割を超えてもなお「情報の非対称性」の問題は残ることを示している。

- (5) 「ベトナム中部における妊産婦の検診・出産時の医療施設選択行動」愛知学院大学経済研究所 経済研究所所報 第2号 117-131頁, 2022年

本論文では、ベトナム中部の3省において2014年と2017年に収集した調査データを使用し、妊産婦の検診・出産時の医療施設選択行動に関する実証分析を行っている。なかでも、妊産婦の医療施設選択行動と医療保険の指定施設との関係を検証し、妊産婦が村落レベルの公的第一次医療施設(CHC)を指定施設とする医療保険に加入していた場合、CHCを利用する確率が高くなる傾向にあったことを確認した。妊産婦の検診・出産時の医療サービスの受診は医療保険の加入状況に拘わらず原則無償である。したがって、保険加入者がCHCを利用する金銭的メリットは少ないにも拘わらずCHCを利用する妊産婦が増加する傾向にあったことは非常に興味深い発見である。

- (6) “What is needed to realize universal “health” coverage? The meaning of health revisited.” *Journal of Global Health Reports*, 2, e2018021, 2018.

本論文では、SDGsでも重要な目標のひとつとされているユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に向け、“Health”の概念そのものについて再考察を行っている。“Health”の概念は医療プロフェッショナルの間でも、時に「病気がなく長生きすること」という限定的な意味で捉えられる。他方、WHOの定義では「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」とされ、健康とは自然に存在するものではなく、人工的な概念であることがわかる。本論文では、健康の阻害要因としての“Disease”, “Illness”, “Sickness”と健康との関係についてのより包括的なフレームワークを示すと共に、UHCの実現に向けて、単に“Disease”の治療だけではなく、予防や社会環境の改善の重要性を指摘している。

- (7) “Married couples’ perceptions on women’s autonomy and subjective well-being in Lao PDR.” *International Journal of Social Economics*, Vol. 46(6), 792-804, 2019.

本論文ではラオスのピエンチャン郊外で12歳未満の子供のいる夫婦198組に対し聞き取り調査を行ったデータを用い、夫婦の女性の自律性に関する認知と妻の主観的な厚生水準との関係を検証している。分析結果は、妻の自律性に関する認知と主観的厚生水準との間の有意な相関関係を示している。対照的に、夫のみあるいは夫婦間で一致した女性の自律性に関する認知は妻の主観的厚生と有意な相関関係はないこともわかった。本研究の分析結果は女系社会における調査データに基づくものであるが、女性中心の社会でさえ家計内の意思決定における女性の自律性への介入が妻の主観的厚生水準の改善に有効な施策であることを示唆している。

(8) 「医療従事者へのインセンティブ制度導入の効果—カンボジアの公的医療セクターの事例—」国際開発学会第 31 回全国大会, 2020 年

本論文は、カンボジアの Demographic and Health Survey を使った分析を行っている。カンボジアでは 2009 年に公的医療施設で働く医療従事者に対する報奨金制度を導入し、医療従事者の勤労意欲を改善、医療サービスの質の向上を図っている。そして、既存研究では報奨金制度導入の結果として、医療従事者が時間通りに出勤するようになるなど行動変容がみられたと報告している。そこで、本研究では、更にこうした医療サービスの供給側の変化により、疾病・疾患に罹患した人々がより公的な医療施設を利用するようになったかどうかを検証している。

(9) 「ベトナム中部の村落医療施設における医療従事者の利他性の分析」国際開発学会第 33 回全国大会, 2022 年

本論文では、ベトナム中部 3 省の 50 村落医療施設において 2014 年および 2017 年に調査を実施し、医療従事者に対する仮想的な独裁者ゲームにより彼らの利他性を数値化した。そして、各年のデータを使った多変量解析により、利他性と関連する要因を探っている。同時に、2014 年から 2017 年に起きたどのような変化が医療従事者の利他性の変化と関連しているかを探ることにより、どのような要因が利他性を決定づける要因となっているのかを検証している。まず、クロスセクション分析からは、年齢や性別、教育水準や職務といった医療従事者個人の特性よりも、職場環境の要因なかでも同じ村落医療施設で働く同僚の利他性との相関関係が強いことがわかった。更に、パネルデータ分析からは新たに二人以上の医療従事者が勤務を開始した村落医療施設において同僚の利他性との相関関係がより強くなっていたことが確認された。このことは因果的な関係として同僚の利他性が各医療従事者の利他性にも影響を及ぼしていることを示唆している。

(10) 「インドシナ半島諸国の村落医療施設における患者満足度の分析」国際開発学会第 34 回全国大会, 2023 年

本論文では、ラオスのピエンチャンの村落医療施設で収集した調査データを用いて、患者の満足度の分析を行っている。分析結果は、患者の受診した医療サービスに対する満足度には患者本人だけでなく、医療従事者の特性が関係していることもわかった。特に、患者と医師が類似のリスク・時間選好を有している場合に、患者の医療サービスへの満足度は高くなる傾向にあることが示された。しかしながら、医療サービスが近視眼的な視点から提供されているのであれば、それは短期的には満足度の向上に資するが、長期的には必ずしも望ましい結果には繋がらない。他方、医師だけが低い時間割引率を有している場合、医療サービスは長期的な視点から提供されているものの、近視眼的な患者の医療サービスに対する満足度は低くなってしまふ。村落医療施設の利用率を向上させるためには満足度の改善が求められているが、適切な医療サービスの提供という意味では、患者の満足度だけを優先することはできないといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 佐藤希	4. 巻 2
2. 論文標題 ベトナム中部における妊産婦の検診・出産時の医療施設選択行動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知学院大学経済研究所所報	6. 最初と最後の頁 117-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Matsushima, M., Yamada, H., Shimamura, Y.	4. 巻 24
2. 論文標題 Analysis on demand- and supply-side responses during the expansion of health insurance coverage in Vietnam: Challenges and policy implications toward universal health coverage	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review of Development Economics	6. 最初と最後の頁 144-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/rode.12627	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yoshikawa K., Kamiya, Y.	4. 巻 46
2. 論文標題 Married couples' perceptions on women's autonomy and subjective well-being in Lao PDR	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Social Economics	6. 最初と最後の頁 792-804
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/IJSE-09-2018-0450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakazawa, M. and Moji K.	4. 巻 2
2. 論文標題 What is needed to realize universal "health" coverage? The meaning of health revisited.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Global Health Reports	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.29392/joghr.2.e2018021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, H. and Vu M. T.	4. 巻 18(4)
2. 論文標題 Health insurance coverage and firm performance: Evidence using firm level data from Vietnam.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The B.E. Journal of Economic Analysis and Policy	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/bejeap-2017-0202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松島みどり、島村靖治、諸岡育美、山田浩之	4. 巻 21
2. 論文標題 ベトナム皆医療保険制度の構築支援に向けて - その歩みと現状：政策評価からの提言 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大阪商業大学比較地域研究所 地域と社会	6. 最初と最後の頁 41-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計8件(うち招待講演 1件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 島村靖治
2. 発表標題 インドシナ半島諸国の村落医療施設における患者満足度の分析
3. 学会等名 国際開発学会第34回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 島村靖治
2. 発表標題 ベトナム中部の村落医療施設における医療従事者の利他性の分析
3. 学会等名 国際開発学会第33回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤希
2. 発表標題 ベトナム中部における妊産婦の検診・出産における医療施設選択行動の分析
3. 学会等名 国際開発学会第32回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Liu Ziying
2. 発表標題 The impact of incentive payment for health workers on patients' health facility choice: A case study of the health sector in Cambodia
3. 学会等名 国際開発学会第32回全国大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島村靖治
2. 発表標題 新興国の医療保障制度の構築に向けて - ベトナムの医療保険制度に関する調査研究 -
3. 学会等名 財務省財務総合政策研究所ASEANワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島村靖治
2. 発表標題 ベトナムの公的医療保険市場における加入率の分析 国民皆保険化の達成に向けて
3. 学会等名 国際開発学会第31回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 劉子瑩
2. 発表標題 医療従事者へのインセンティブ制度導入の効果 カンボジアの公的医療セクターの事例
3. 学会等名 国際開発学会第31回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 諸岡育美、島村靖治
2. 発表標題 ベトナムにおける国民皆保険化達成に向けた実証分析 公的医療保険への加入要因分析
3. 学会等名 国際開発学会・人間の安全保障学会2019共催全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 浩之 (Yamada Hiroyuki) (40621751)	慶應義塾大学・経済学部(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	松島 みどり (Matsushima Midori) (20634520)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
研究分担者	神谷 祐介 (Kamiya Yusuke) (30636072)	龍谷大学・経済学部・准教授 (34316)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中澤 港 (Nakazawa Minato) (40251227)	神戸大学・保健学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	佐藤 希 (Sato Nozomi) (30838040)	愛知学院大学・経済学部・講師 (33902)	
研究分担者	佐々木 周作 (Sasaki Shusaku) (20814586)	大阪大学・感染症総合教育研究拠点・特任准教授（常勤） (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関